

## 医師の配置状況について

岩手県医療局 (H24.8.27)

## 1 医師数の推移

全国の医師数は年々増加しているが、東京と西日本に多く、東北や関東（東京を除く）、中部が少ない。

本県の医師総数は横ばい状態であるが、県中部に集中し、県北・沿岸部が少ないという地域偏在があるとともに、人口 10 万対医師数では、全国平均との乖離が拡大する傾向にある。

【人口 10 万対医師数：H22.12 現在】（岩手県：193.7 人（全国 40 位））（単位：人）

全国	東京	四国	九州	中国	近畿	北海道	北陸	東北	中部	関東（東京除）
230.4	303.7	269.8	266.7	261.7	251.2	229.0	224.5	206.0	201.2	178.6

【医師総数の動向】（単位：人、％）

区分	H12 (a)	H14	H16	H18	H20	H22 (b)	増減 (c=b-a)	増加率 (c/a)
全国	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	39,257	15.3
本県	2,571	2,530	2,499	2,569	2,594	2,576	5	0.2

【人口 10 万対医師数の動向】（単位：人、％）

区分	H12 (a)	H14	H16	H18	H20	H22 (b)	増減 (c=b-a)	増加率 (c/a)
全国	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	28.9	14.3
本県	181.1	179.8	179.1	186.8	191.9	193.7	12.6	7.0

【岩手県の人口 10 万対地域別医師数の状況：H22.12 現在】（単位：人）

盛岡	岩手 中部	胆江	両磐	北上川 流域	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県北 沿岸	県 全体
287.1	140.0	154.1	150.1	214.9	142.3	137.4	119.1	123.5	141.3	131.6	193.7

## 2 県立病院の医師の状況

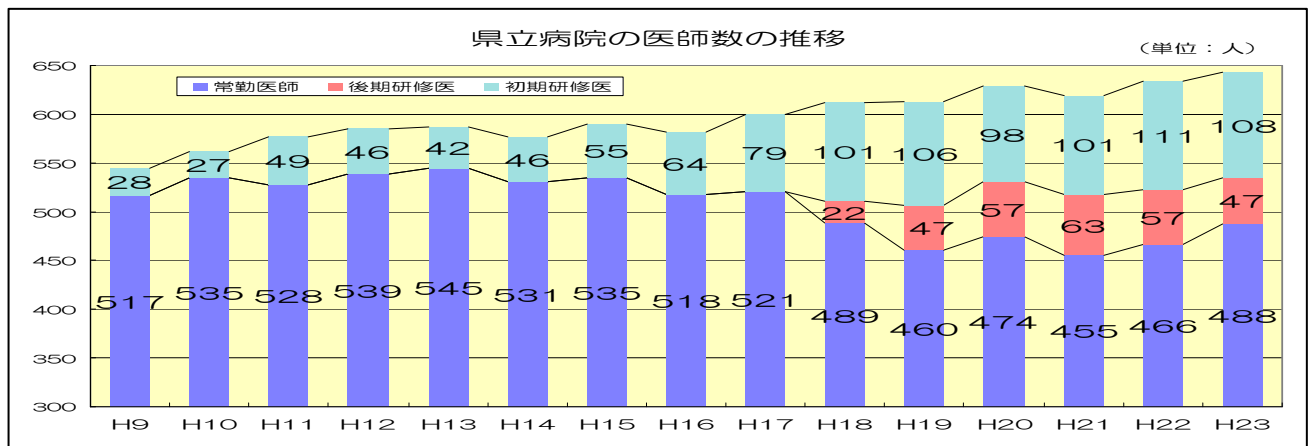
### 《常勤医師数の減少》

平成 24 年 3 月末現在における県立病院の常勤医師数は 488 人（後期・初期研修医を含まない）で、前年同月と比較して 22 人の増となっており、減少傾向に歯止めがかかりつつあるが、平成 13 年度末の 545 人を大幅に下回っている状況である。

【県立病院の常勤医師数の状況（前年同月比較）】

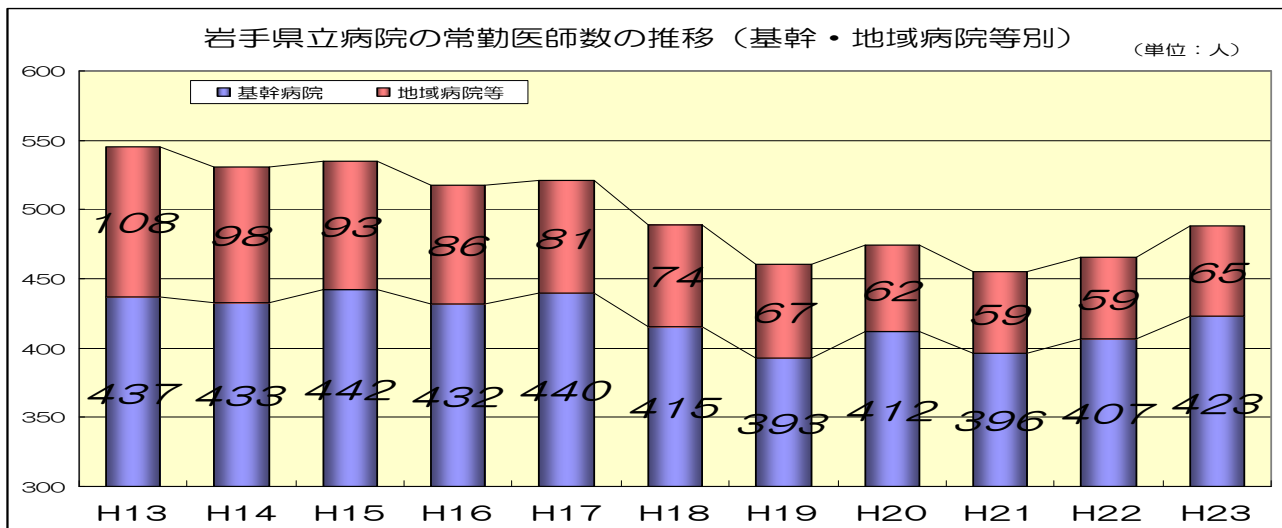
〈単位：人〉

区 分	正規	臨時	常勤計	後期研修医	初期研修医	合 計
H23.3 末	4 4 5	2 1	4 6 6	5 7	1 1 1	6 3 4
H24.3 末	4 6 6	2 2	4 8 8	4 7	1 0 8	6 4 3
増 減	2 1	1	2 2	▲ 1 0	▲ 3	9



### 《基幹病院・地域病院の偏在》

基幹病院の医師数はほぼ横ばいであるが、地域病院の医師数は減少している。



### 《地域の偏在》

平成 23 年度の標榜診療科に対する常勤診療科の割合は、北上川流域地域の 65.7%に対して、県北・沿岸地域が 61.0%、その中でも沿岸地域が 54.4%と低い状態である。

平成 13 年度と比較した場合、北上川流域地域が 16.2%の減少、県北・沿岸地域が 15.9%の減少と当該地域間では大きな差は無いが、沿岸地域は 21.6%と大きく減少している。

#### 【地域別常勤医師数・常勤診療科率の動向】

〈単位：人、%〉

区 分	北上川流域地域		県北・沿岸地域		沿岸地域〈再掲〉	
	常勤医師数	常勤診療科の割合	常勤医師数	常勤診療科の割合	常勤医師数	常勤診療科の割合
13 年度	304	81.9	227	76.9	132	76.0
23 年度	294	65.7	186	61.0	103	54.4
増 減	▲10	▲16.2	▲41	▲15.9	▲29	▲21.6

### 《診療科の偏在》

平成 23 年度の診療科全体に対する常勤診療科の割合は 63.5%となっているが、特定診療科（小児科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科）は 50.8%となっている。

平成 13 年度と比較すると、診療科全体では 15.6%減少、特定診療科では 26.8%減少となっており、特定診療科の減少割合が大きい。

#### 【特定診療科の常勤診療科率の動向等】

〈単位：%、人〉

区 分	診療科全体の 常勤診療科の割合	特定診療科における 常勤診療科の割合	比 較	特定診療科の 常勤医師数
13 年度	79.1	77.6	▲1.5	92
23 年度	63.5	50.8	▲12.7	85
増 減	▲15.6	▲26.8		▲7